

3. 大門遺跡

所在地 茅崎市旭町上条中割地内
発見原因 小学生等による表採
現地確認日 1997年11月21日
調査主体 茅崎市教育委員会
担当者 関間俊明

遺跡概要

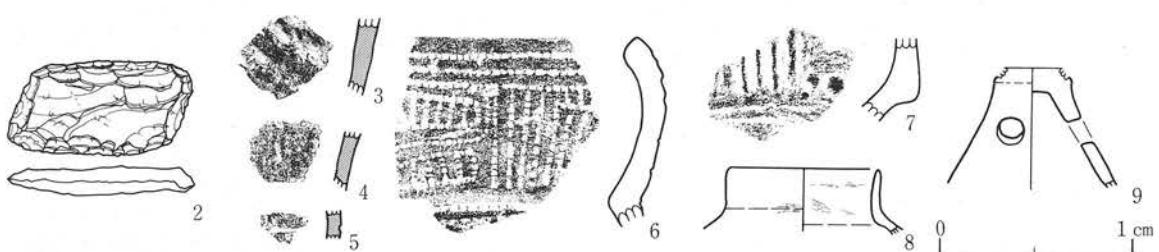
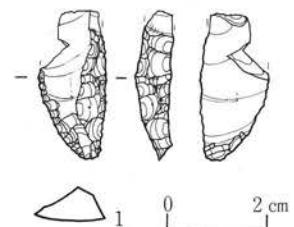
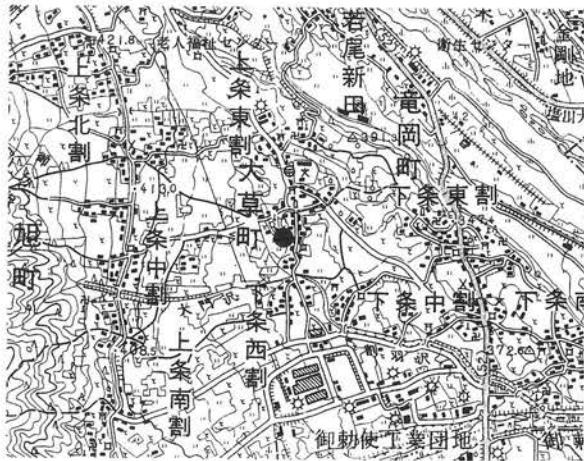
大門遺跡の発見は、平成9年10月下旬頃に、茅崎市に在住の春日ひろし君、秋山ともや君、春日ゆうじ君の3人の小学生が、縄文・弥生土器などを拾い、市教育委員会に届けてくれたことによる。また、平成11年2月にも、遺跡内の畠の持ち主である横森薰氏からも石器の届出を受けた。表採した遺物に興味を持って届けてくれた方々に感謝するとともに、茅崎市では珍しいナイフ形石器をはじめとする遺物等を紹介し、地域の歴史復元の一助としたい。

* 旧石器時代：黒曜石製のナイフ形石器を1点確認している。素材剥片のバルブを先端としている。先端部は欠けているが、バルブは除去されているようである。左側縁はやや急な角度の剥離調整を行い、右側縁から基部にかけては急な角度の調整を行っている。

該期の遺跡は茅崎市のみならず、北巨摩郡内でも極めて少なく、ナイフ形石器を使用する集団の動きを知るうえで貴重な資料である。

* 縄文時代：胎土に纖維を含む、前期前半の土器片（3～5）である。 旧石器時代の遺物（S=2/3）
この時期、北巨摩郡では遺跡数は少ない。釜無川水系では、多数の住居跡が確認され一集落を形成していた白州町上北田遺跡や固定式石皿が出土した茅崎市坂井遺跡天神前地区など、該期以降の遺跡数と比較して少ない。6は猪沢式である。1は粘板岩状のホルンフェルス製の横刃石器であり、中期の所産であろう。

* 弥生時代：7は壺の口縁部、8は埴、9は高坏の脚部である。



縄文～古墳時代の遺物（S=1/4）

新たに遺跡の存在を把握したことでも重要であるが、そのことよりも遺跡確認が地域の住民の方々からの届出によることは、我々文化財担当者にとって非常に心強いことである。